

## 『自分の海外キャリアについての模索』

2024年度埼玉発世界行き 地域活躍コース 森 万睦

### ベトナム・ホーチミン

私はこの度、地域活躍コースの奨学生に任命していただき、大学の海外キャリアプログラムを活用し、2025年2月から3月にかけての1ヶ月間、ベトナム・ホーチミン市に所在する日系企業にてインターンシップを行った。そして、ベトナム人のスタッフの方々にベトナムの魅力を教えてもらうのと同時に、日本や私の生まれ育った埼玉県の魅力についても発信することに努めた。

本インターンシップへの参加動機は、ベトナムに対して特別な関心を抱いていたわけではないが、かねてより一度訪れてみたいと考えていた国であり、大学のプログラムの渡航先に設定されていたことから、思い切って応募するに至った。また、幼少期より海外で働くことに対して関心があり、大学3年次に就職活動が本格化する前にこのような貴重な機会を経験しておきたいとの思いもあり、参加を決意した。

特に印象的であったのは、ベトナム人の日本に対する親しみと関心の高さである。多くの現地スタッフや大学生が日本語を熱心に学んでおり、日本文化についても幅広い知識を持っていた。日本のアニメやドラマ、食文化に関する話題で盛り上がることも多く、日本という国がベトナムの人々にとってどれほど身近な存在であるかを改めて認識する機会となった。このような文化的つながりの存在を知ることは、私にとって非常に大きな気づきであり、将来的に国際的な舞台で働くうえで、日本の魅力を他国に発信していくことの重要性を実感する契機となった。日本国内では、ベトナムに対して具体的なイメージを持っている人は必ずしも多くないかもしれない。しかし、現地では多くの若者が日本への憧れや関心を持っており、日本での就労や留学を真剣に目指している姿を目の当たりにした。このような事実が日本社会に十分に共有されていないことは非常にもったいないことであり、今後は日本とベトナムの関係をより深めるためにも、互いの国に対する理解や交流機会を増やしていく必要があると感じた。

インターンシップ中には、ホーチミン市内の大学における日本語学科の学科長や教員との会議に、社員と共に参加する機会にも恵まれた。会議では教育課程や日本企業との連携についての議論がなされ、日本語教育を通じて両国をつなぐ取り組みの最前線を知ることができた。また、実際の日本語の授業にも参加し、現地学生との交流も行った。学生たちは非常に流暢な日本語を話し、会話の中で日本に行きたい理由や、自身の将来の夢について熱心に語ってくれたことが強く印象に残っている。彼らと接する中で、言語や文化の壁を超えて心が通じ合う瞬間があり、日本とベトナムの関係が今後さらに深まっていく可能性を肌で感じた。

ベトナムでは首都や観光都市である東京・大阪・京都などの知名度は高い一方で、埼玉県について知っている人は限られているのではないかと当初は思っていた。しかし実際には、思いのほか多くの人々が「東京の近くにある県」として埼玉を認識しており、地理的な位置をすぐに理解してくれた。そのうえで、埼玉にはどのような観光地があるのか、東京とどう違うのかといった具体的な質問を投げかけられ、私は自信を持って埼玉の魅力を紹介した。私は、川越の歴史的な街並みや「小江戸」と呼ばれる観光地としての特色、秩父の自然豊かな風景や季節ごとのイベント、長瀬での川下りや紅葉の名所としての魅力などを具体的に伝えた。また、埼玉は東京から電車で短時間で訪れることができ、日帰り旅行にも適しているという点も強調した。こうした情報に対して、現地の人々は非常に興味を示し、「ぜひ行ってみたい」「写真を見せてほしい」といった声が多く寄せられた。さらに、日本の地方都市に住んでいる若者がどのような日常を過ごしているのかについても話す機会があった。東京のような都市部とは異なり、自然や地域行事、人とのつながりを大切にしながら生活していること、地元ならではの文化や空気感があることなどを説明すると、ベトナムの人々から「日本のリアルな生活が想像できた」と感想をもらうことができた。こうしたやりとりを通じて、私は「自分の住んでいる地域について語れる力」の重要性を実感した。グローバル化が進む現代において、英語や中国語といった語学スキルももちろん必要であるが、それ以上に「自国・地域の魅力をどれだけ理解し、他者に伝えられるか」という能力が国際交流の場面で大きな役割を果たすと感じた。

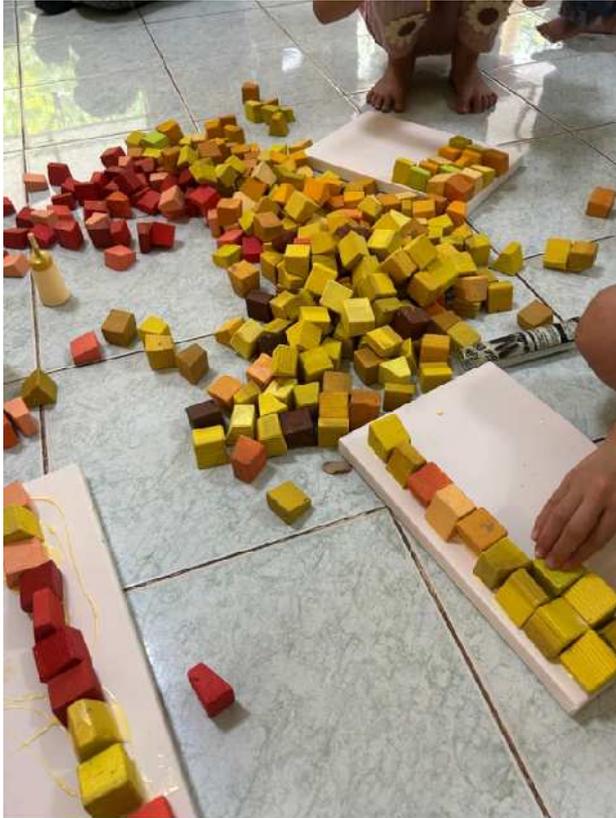
インターンを通して、私は単に企業での実務経験を積むだけでなく、自らのアイデンティティの一部でもある「埼玉県」という地域について再発見し、それを海外に伝える楽しさと意義を深く学ぶことができた。今後もこうした経験を活かし、日本各地の魅力を発信しながら、国と国、人と人をつなぐような働き方を目指していきたいと考えている。これまで私は、自分の地元が海外で認知されているとは考えていなかったが、この経験を通して、地域の魅力を海外の人々に発信する意義を感じるようになった。観光地や地元ならではの魅力を、言葉を超えて紹介することが、国際交流の第一歩となることを実感した。今回のインターンシップを通じて得た学びや気づきを今後の進路選択に活かし、さらに広い視野で物事を捉えられるようになりたいと考えている。

ベトナム滞在中は、ホーチミン市内の様々な場所を訪れることが出来た。また、物価も日本より安価なため食事や雑貨などの買い物も楽しむ事が出来た。ベトナム料理を今まで食べた事が無かったので、フォーやブンチャーやバインセオなど初めて口にするものばかりだったが、どれも美味しかった。また、お洒落なカフェが街中に沢山あって、美味しいドリンクやスイーツが沢山あり、休日もとても充実した日々を過ごせた。そして、戦争記念博物館やクチトンネルツアーに参加し、ベトナム戦争についても学んだ。ベトナム戦争では、多くの民間人も巻き込まれ、博物館には痛々しく、生々しい写真や資料が多く展示されていた。

見ているのが辛くなるような内容が多くあったが、実際に起きた戦争について学び、今後同じことが起こらないようにするにはどうしたら良いか現代社会を生きる私達も考えていくテーマだなと感じた。また、日系企業の会社の方のお誘いで、ホーチミン市にある孤児院にも訪問させていただき、新しい発見が沢山あった。日本にいた時では、知り得なかったことを沢山知ることができ、もっと孤児院の子供達の存在を世の中が知っていくべきだと感じた。私は、全ての人がボランティアに参加するべきで子供達に寄付しろとは思わない。しかし、現代社会の様々な問題や実態を知ろうという姿勢を持つことが非常に大切だと思った。ベトナムの孤児院だけでなく、日本や世界中に孤児院は多くあると思う。このような子供達の存在を私たちが少しずつでも理解し、何か自分達ができる事を考えるのが重要であると思った。



友人と一緒に食べたベトナム料理のフォー



孤児院に訪れた際に子供たちと一緒に作った木のアート

そして、業務面として、結果としてはもっと改善すれば良かったと思う点はあるものの、インターン研修において社員の方々から多くの良いフィードバックをいただくことができ本当に嬉しかった。今回のインターンを通じて、学生のうちに海外で働く経験を積めたことは、他の学生にはない強みになったと思う。また、インターンを通じて、任された業務に対して最後まで責任を持って取り組むことで、自己管理能力を身に付けられたと感じている。3週目ぐらいで任せていただいているタスクが増え、キャパオーバーになりかけたこともあったが、自分の中で優先順位を決め、タスクを細分化し、毎日の目標を定めて取り組んだ。この経験を通じて、目標を明確化し、それを達成するためのプロセスを一つ一つ決めていくことの重要性を学んだ。企画内容を考案し、プレゼン発表する際にも、どのような過程を経て考えるべきかを学ぶことができた。今まで自分の案を人前で発表する機会が少なかったため、とても貴重な経験になったと感じている。

最後に、このプログラムでの経験を通して、自分の得意不得意を改めて認識し、自己分析に繋がったことも大きな収穫だった。今後の就職活動において、自分がどのような分野に興味を持ち、どんな業務内容が好きなのかを知る良い機会になった。異文化の中での驚きや楽しさを吸収できたことは、大変貴重な経験だった。一方で、事前に企業や業界について十分

に調べずに参加したため、業務の進行がスムーズでなかったと感じる場面もあった。インターン開始前に業界理解や企業研究を行っておくべきだったと反省している。また、最初に目標として掲げた「ベトナム語の挨拶や簡単なフレーズを学ぶ」「インターン終了後にどうなっていたいかを事前書き出す」ことができなかった点も課題として残った。自分は目標を設定しても、それを達成するための行動を忘れがちであることに気づき、今後は意識して改善していきたいと考えている。今回のインターンシッププログラムに参加したことで、自分が様々なことに興味を持ち、チャレンジ精神が旺盛であることを再認識する機会にもなった。この長所を活かし、今後も興味を持ったことには積極的に挑戦していこうと思う。グローバル化する世界を生きていく私たちの世代では、日本国内にいて異文化に触れることはいくらでも出来ると思う。しかし、実際に現地に行って、現地の人と交流するのでは全く違うことである。この経験を通じて学んだことを活かし、今後のキャリア形成に繋げていきたい。



タンディン教会

この度は、このような素晴らしい経験をする機会を与えていただき誠にありがとうございました。この経験を日本や埼玉県にどのように還元していくか、まだ試行錯誤している部分はありますが間違いなく、これからの大学生活やキャリア形成において重要な分岐点になったと感じています。